

音楽の世界で今何が起きている??

阿部 竜之介 『Pepeの視点』

January / 10 / 2014 # 10

---

Trombone & Euphonium奏者の阿部竜之介(Pepe)です。

このメールマガジンでは、僕から見た今の音楽の世界で起きていること、また演奏に関するヒントなどをお届けしていきます。

またメルマガ内でもいろいろな質問に答えていこうと思っていますので、どんどん質問してきてくださいね！

---

## INDEX

[1] 旬な話題、気になる話題

『Trombone in NYP』

[2] Pepeのひとりごと

『誕生日』

[3] おすすめ動画

『アルメニアン・ダンス（吹奏楽&原曲）』

『ExponiumFour.wmv』

[4] 演奏のヒント！

『ブランク明け Part 2』

[5] 編集後記

---

[1] 旬な話題、気になる話題

『Trombone in NYP』

今、NYP(New York Philharmonic)のTromboneにとっても興味深いことが起こっています。

それは、この1月から数ヶ月の予定で（確か）オランダ、アムステルダムオーケストラ「コンサートヘボウ管弦楽団」の首席トロンボーン奏者のJörgen van Rijen氏がNYPで演奏するのです。ソリストとしてではなく、オーケストラのメンバーとして。

僕は、NYPの首席トロンボーン奏者のJoseph Alessi氏とは話したりマスタークラスを見学したことはあっても、レッスンは受けたことはありません。でも、Jörgenにはレッスンをしてもらったことがあります（もちろん話したりもしたことがあります）。

実はこの話、11月に東京でJohan（de Meij氏）と会って話した時に初めて聞いたのですが（Johanが住んでいたところにJörgen一家が引っ越してくるようなんです。笑）、いよいよ1月になり、NYPのコンサートが聴きたくて仕方がない状態です（笑）。

どちらの奏者の演奏もすごく好きなので、それらをソロではなくオーケストラの中で聴くとどのような違いになるのかにはとても興味があります！

こういう刺激的なニュースがすぐオンタイムで知ることができるのは、現代社会のいいところの一つでしょうね。

この先、NYPのTromboneセクションがどのような変化をしていくのかに注目です！！

## [2] Pepeのひとりごと

### 『誕生日』

前号でもここでEuphoniumのことを書きましたが、実は今日、1月10日は僕のEuphoniumの誕生日なんです。去年の今日、僕はオランダのADAMS社の工場にいて、この楽器の完成を見届けました。

ベルに名前を彫ってもらっているということもありますが、今の楽器にはとても愛着があります。

そりゃそうですね。たくさんの人たちが協力して自分のために自分の楽器を作ってくれたのですから。

僕の今の楽器は、マウスパイプの角度も僕の要望に合わせて曲げてくれて、その他にも僕の意見やアイデアを採用してくれています。その多くは同じモデルの楽器にも採用されました！

考えようによっては「変な演奏をしてはいけない！」というプレッシャーも大きくなってきそうですが、それはどのような楽器を使っている、音楽家として生きていく以上常に持っていること（または持っていないといけないこと）なので、僕の場合はそれに関しては特に変化はありませんでした。

することは、常にその時にできうる最大限の努力、追求をして、最高の音で自分の思う音楽と伝えていく、ということです。

それをする上で、最高の楽器を作ってくれたADAMS社には本当に感謝しています。

今日でようやく1年ですが、これからもこの楽器とともに何年も何年も活動が続けていこうと思います！！

### [3] おすすめ動画

『アルメニアン・ダンス（吹奏楽&原曲）』

[https://www.youtube.com/watch?v=eD\\_8j-t9O4o&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg](https://www.youtube.com/watch?v=eD_8j-t9O4o&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg)

Aリード作曲の「アルメニアン・ダンス」という曲は知っていますか？吹奏楽をやっている、やっていた人たちは聞いたことあると思います。そのアルメニアン・ダンスの吹奏楽の音源と、オリジナルのダンスの音源を比較できる動画がこれです。

僕は初めてこの動画でオリジナルのダンスを聞いたのですが、とても興味深かったです。

近いうちにまた演奏したくなってきました（笑）。

『ExponiumFour.wmv』

<https://www.youtube.com/watch?v=pWMArcVtR9Q&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg&index=12>

何かおすすめかお気に入りの吹奏楽の動画はないかなあ？と思って自分のアカウントのリストをみてみたのですが、ありませんでした（笑）。

今回の2つ目の動画は、2010年にEuphoniumの友人たちと一緒に東京でコンサートをした時の演奏の一つを紹介します。

「Exponium Four」という名前でやったコンサートなのですが、メンバーは照喜名俊典さん、齋藤充さん、山田伊津美さんと僕の4人です。

それぞれEuphoniumの他にもう一つちゃんと扱える楽器があるという共通点の他に、それぞれ海外の異なる国で勉強してきた4人という個性を持った4人です。

このコンサートとメンバーのために「Exponium Four!」という曲を照喜名さんが書いてくれました。

実は僕もこの動画の存在に最近気づいたのですが、ぜひ聴いてみてください。それぞれ自分の得意分野のテイストの曲ではその人がメロディーを吹いています。

#### [4] 演奏のヒント！

##### 『ブランク明け Part 2』

前回に引き続き、今回もブランク明けの再スタートについて書いてみますね。

今回からメールマガジンを読み始めた方は、バックナンバーも無料で読めますので、まず前号から読んでみてくださいね！

前回書いたように、やりやすい音域と音量で出しやすい音を繰り返し出すことをやったら、次に音域を少しずつ広げていきましょう。

音域は、最初に吹いた音から上下どちらにも動いてみてください。必ず上下とも両方をやってくださいね！最初（初日）は低い音域だけ・・・なんて考えてやってしまうと、その先も高音域に対して苦手意識がつきまわってきます。

音域に合わせて注意することを書いてみます。

まずは低音域。

これは、まずは音が出るようにしてみましよう。

音が出るまでアンブシュアや吐く息のスピードをゆるめてみると、どこかで低い音が出るようになります。

音が出るようになれば、前号書いたのと同じ要領で何回か繰り返し吹いてみてください。

その時、音が出るまでゆるめたアンブシュアをもう一度「繰り返し同じ音を吹きながら」確認して、今度は少しずつ締めていってください。

音を出すことに慣れてくれば、少しアンブシュアを締めても同じ低さの音が出せるようになります。

それができれば、今度はその締めた状態で何回か吹いて、なるべく同じような音が出ているのかをチェックします。

（常に音はよく響いた音なのかをチェックし続けてくださいね）

そうやって見つけたアンブシュアが、あなたにとって低音域を吹くときのいい状態です！

次は高音域。

高音域の場合も、基本的には低音域でやったことと同じことを逆にしてやっていきます。

低音域の時と少し違ってくるのは、「音が出るまでアンブシュアを変えていく（低音域の場合はゆるめていく。高音域の場合は締めていく）」というところです。

高音域の場合は、とりあえずしっかりとした音（楽器がよく響いているような音）が出るまで締めてみてください（音はキタナイ音でいいですからね！強い息の圧力でしっかり唇を振動させてください）。「そこまで締めちゃダメでしょ」と思う、キツすぎるアンブシュアと思われるところまで締めてみてくださいね。

自分でどのくらいまでやればいいのかわからない人は、例えば「高いソ」の音（B♭管でいう実音のF）が何回吹いても当たる状態だと思ってもらっていいです。  
\*そこまで音が出ない人は、自分の出せる高い音でいいですよ。

5～6回繰り返してやって音が常に当たるようになれば（もちろんキタナイ音でOK!）、それをまた繰り返しながらすこ～しずつアンブシュアをゆるめていってみてください。

わかっけてもらいたいことは、高音域の場合、少しずつ締めていっていいところを見つけるのではなく、「締めすぎた状態」をまず作り、そこからすこ～しずつゆるめていき、ちょうどいいところを見つける、ということです。

こうして再スタートを切ると、その後音域を広げるための練習をする際にも、何かしらのコツの掴み方が得やすくなると思います。

大小に関わらず、ブランクのあとで吹く機会がある人（週末プレイヤーの方たちも!）は、ぜひ、やってみてくださいね～!!

---

## 編集後記

新年、あけましておめでとうございます!  
去年の4月から始めたメールマガジンも、今号で10回目となりました。  
購読していつも読んでいただいているみなさま、本当にありがとうございます。

年々、「1年」という期間が短く感じられてきています。  
そうすることで、忙しいけど「もう少し落ち着いてきたら・・・」と考えていてはいつまで経っても何も始められないので、思い切って4月にやり始めました。

今のところ（まだ1年も経っていませんが）月に1回、第2金曜日に発行というのは守れています。

余裕があれば月2回にしようと思っていたのですが、全くそのような余裕はありません（笑）。

まだまだ他にもやりたいことがたくさんあるので、メールマガジンはこれからも月1回発行でやっていきますね。

今年もさらに活発に、積極的に音楽活動をしていきたいと思っています。

今年もみなさまに少しでも有効な情報を発信できるよう、僕自身も成長、勉強していきます！

今年もよろしく願いいたします。

---

阿部 竜之介(Pepe) オフィシャルウェブサイト

<http://www.pepeabe.com>

ご意見、感想、質問などはメールでどうぞ！

[info@pepeabe.com](mailto:info@pepeabe.com)